

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスじゅれーとびっこ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		2026年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年 3月 3日		2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療法・おにぎり活動 施設外活動 公園活動、散歩、買い物体験、公共施設利用 農業体験 地域交流(イベント参加)	「音楽療法」ハンドベルを使い音楽療法士によるプログラムを行っています。また、「おにぎり活動」を行っています。食育のねらいもありますが、自分で作ったおにぎりを自分で口に運ぶ。当たり前で学ぶ事が多くあると思っています。言葉の表出が難しい児童でも快・不快、はい・いいえ、好き・嫌い等の選択や意思表出などが行ないやすい支援・環境作りを意識しながら重点的に取り組んでいる。	音楽に携わりながら、発表する機会を設け、目標達成め向け日々練習を重ねています。おにぎりを握る感触、力加減 咀嚼する事で生まれる効果 職員がおにぎり活動の意味を理解し取り組み事でおにぎりを握る活動の本来の意味が支援結果として現れると思っています。
2	コミュニケーションの向上	利用児童一人一人のコミュニケーション能力に合わせて、絵カード・写真カード、マカトンサイン、ジェスチャー等の様々な視覚支援を活用し、全職員が共通・統一された支援を行なっていく取り組みをしている。言葉の表出が難しい児童でも快・不快、はい・いいえ、好き・嫌い等の選択や意思表出などが行ないやすい支援・環境作りを意識しながら重点的に取り組んでいる。	視覚支援の充実や拡充に努めてはいるものの、PECSなどは一人一人の児童に導入しきれていない。また、タブレット端末などのアプリを活用してのコミュニケーションにも着手・挑戦が行なえていない。時代と児童に合わせて、最新の技術の活用や、児童に合った・応じた取り組みの強化をしていきたい。
3	行事・イベントでの児童の交流 法人内での共同イベント	季節ごとの行事やイベントを楽しめるような活動の取り組みをしている。クリスマス会農業収穫祭などは同法人内で別の事業所となる施設と合同で取り組み、児童の交流を行なっている。今年は獅子舞の舞を見学したり、空手道場の方を招いて空手の体験を行いました。	行事やイベントによって内容が簡易的になってしまうこともある為、じっくりと予定を練り、時間を捻出して、季節を感じながら行事に対する意識を大切にしていこう努めたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内活動の取り組み	幅広い年齢層の児童、通常級・支援級・特別支援学校の別々の学校の児童が一同に来所する中で、それぞれの障がい特性や得手・不得手から、集団での室内活動内容が限られがちになっている。体を動かしたり学びながら楽しく過ごせる場の提供も出来てはいるが、集団での運動遊び・サーキットや音楽(リズム)遊び、個別課題、SSTなどへの取り組みが少なくなっている。	個別支援に向けた個々の支援の提案にも力を入れていく工作やおやつ作りなどの活動も頻度を増やして、室内活動の内容充実を図っていく。
2	学習支援の取り組み 個別支援	通常級や支援級の児童の宿題や学習面への支援はあまり行なえていないのが現状である。放課後からの利用では下校時間と、基本的な当事業所のメイン活動の観点より学習支援が難しい場面が多い。一方で、ご家庭からは学習支援を求める一定のニーズもある為、個別対応の時間の確保をし数分でも学習の面の支援にも力を入れたい。	時間を工夫して少しの時間でも宿題等を進める学習支援を行なっていく。また、夏休みや冬休みなど宿題が多く出る学校の長期休業時にはなるべく学習支援に取り組む。
3	地域交流の企画を行う	地域との交流をもつ機会を作ることの難しさがある。地域の公共施設の利用や、公園で出会う近隣の住民や児童との交流を重ねながら施設の認知度を高めて、ゆくゆくは地域に貢献できる事業所を目指す。	ボランティアの受け入れや、大きなイベント行事開催の際の近隣住民への告知や参加は継続していきながら、よりその頻度を高め質の高い交流を目指し、地域に根差した事業所を目指す。